

## トピックス

## 日本メタルフリー歯科学会参加報告

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯学分野 雨宮 幹樹

## はじめに

患者さんの審美的要求の高まりや、近年の金属価格の高騰により、金属を使用しないメタルフリー治療が盛んに行われてきている。当講座ではジルコニアに対する接着など、メタルフリー素材に対する接着を研究してきた。そんな中、2014年4月から小臼歯部に限定されてはいるが、ハイブリッドレジンCAD/CAM冠が保険導入され、さらには2016年1月からファイバーポストも保険導入されている。メタルフリー治療の目的は、白い材料を用い金属色がないので審美的要素と考えがちだが、それだけではなく金属アレルギーなど全身の要素もあげられる。オールセラミックスであれば、生体親和性が非常に高いため有効な材料であると考えられる。

## 日本メタルフリー歯科学会について

日本メタルフリー歯科学会は「今後の歯科医療の発展的展望は身体的な面ばかりではなく、審美的な面からも“メタルに劣らない 身体により親和性に優れ、しかも審美的な歯科材料”があり得るという視点に立って、多くの議論を戦わす場が必要である。」<sup>1)</sup>との趣意のもと2009年に設立された。年1回の学術大会が行われており、2012年には「メタルフリー歯科臨床に関わる基本的知識と専門的技術を有する歯科医師の養成を図り、メタルフリー歯科臨床の発展と水準の向上に寄与し、もって国民の健康と福祉に貢献することを目的」<sup>2)</sup>とした認定医制度を開始した。現在は、認定歯科技工士、認定歯科衛生士制度も行われている。2015年の第7回日本メタルフリー歯科学会学術大会より一般社団法人となった。

## 第7回日本メタルフリー歯科学会学術大会

2015年11月3日に日本歯科大学生命歯学部にて開催された。前述の通り、社団法人化した最初の学術大会である。そして一般演題の募集も今回初めて行われた。

本大会では、教育講演として「歯科用金属アレルギーに対する病院の取り組み」という講演が

あった。日本歯科大学付属病院では、歯科と皮膚科だけではなく、歯科技工室が一体となって口腔アレルギー外来を開設していることがあげられていた。金属アレルギー症例において、歯科医師だけでなく補綴物を製作する側からの治療計画への参画がなされている。今後も金属アレルギー症例は増えることが考えられるため、大変参考になるのではないと思う。「メタルフリー歯科時代におけるインプラント」(理事長講演)では、ジルコニアインプラントの症例が報告された。インプラントといえばチタン製と認識されている。チタンは生体親和性に優れアレルギーがないといわれてきたが、近年アレルギーの症例が報告されている。また、マスコミにより金属アレルギーの問題が報道されており、金属アレルギーに不安を抱いている場合もある。そのような場合において、ジルコニアインプラントの存在を提案できるようになれば、治療の選択肢が広がるのではと考えられる。ジルコニアインプラントは、日本ではまだまだ導入のハードルが高いが、今後の発展が期待される。

## おわりに

現在は、金銀パラジウム合金を使用したものから大きく変化していく過渡期にあたるのではないと思う。優れたメタルフリー素材の登場により、今後(ただし時間はかかるが)、金属を用いたものから置き換わっていくと考えられる。また光学印象法やCAD/CAMの応用と、従来の鋳造を用いたものからも、変わっていくことが想定される。この大きな時代の変化について行けるようアンテナを張り巡らし、日々の情報収集をしっかりと行っていき、メタルフリー治療の知識・技術も習得をしていきたいと思う。

## 文 献

- 1) 日本メタルフリー歯科学会 設立趣意書  
<http://metalfree.net/>
- 2) 日本メタルフリー歯科学会 認定医制度  
[http://metalfree.net/certification\\_system.html](http://metalfree.net/certification_system.html)